

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Seamless Support Labs ライズ・スプレッド(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025 年 10 月 17 日		～ 2025 年 11 月 7 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025 年 10 月 17 日		～ 2025 年 11 月 7 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 2 月 10 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	シームレスな支援の提供	就学後(放課後)に利用する放課後等デイサービス、学校卒業後の日中活動の場である生活介護事業所が同じ建物内で事業運営をしている。 地域で生まれ、地域で育つことを継続して支援できる環境となっている。	・個々の疾患や障害の予後、発達段階を理解し、それぞれに合った個別支援の提供を行う。 ・ライフステージが切り替わる際も、スムーズな移行ができるように連携体制を構築する。
2	週1回のプール支援	25mの室内プールがあり、季節問わず、週1回のマンツーマンでのプール支援の提供ができています。定期的に外部講師に来てもらい、プールプログラムにおける助言・指導を受け、日々の支援に活かしている。	・それぞれのプール活動における目的(意義)を整理し、個別プログラムの確立→実施をしていく。 ・どのような動きがそれぞれの状態像(筋緊張が強い、呼吸がしづらい等)にとって有効なのかを外部講師の研修等を通して職員の理解に繋げる。
3	様々な体験・機会の場	五感を使った日々の活動プログラムの提供、社会資源(近隣の図書館や公園)の活用、宿泊体験(2泊3日、希望者のみ)の機会を提供している。殆どが医療的ケアを要し、最重度と言われる利用者となっているが、なるべく活動を制限することがないようになっている。	・隣接、地域の保育所等(同年代)との関わる機会を設ける。 ・宿泊の前段階となる公共交通機関等を利用した外出活動を計画的に組み、利用者は保護者以外の他者と出かける体験を、保護者には安心して他者に任せられる経験を積んでもらえるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族(きょうだい)支援	児童発達支援/放課後等デイサービス/生活介護 合同での年2回の家族連絡会、イベントを開催しているが、人数も多く交流の機会としては十分ではない。また、イベントにはきょうだいの参加もあるため、内容は工夫しているものの十分ではない。	・合同で実施しているものは残しつつ、事業所毎での交流の機会を設定していく。 ・勉強会の内容についても、それぞれの事業体で保護者が求めているものを把握して実施していく。 ・きょうだい児支援者の研修を職員が受講し、きょうだいをメインとしたイベントの計画、実施を行う。
2	地域との連携	隣接する保育園と園庭を共有しているが、現在は時間を決めて使用している。普段から意識せずに自然と交流できる場所であるが、うまく活用しきれていない。	・保育園側との協議の場を設定し、まずは園庭を通して相互理解を進めるきっかけづくりを行う。
3	人材育成・確保	医療的ケアを必要とし、最重度と言われる児童が多いため、支援員は発達支援だけでなく医療的な部分の理解を深める必要性がある。また、退院して地域移行後すぐの利用者にとっては、呼吸・食事・睡眠等の生活リズムを整えていくことが重要となるが、専門職が不足している。	・継続して事業所内研修等を行い、知識・理解を深めていく。 ・経験年数、職種に合わせた外部研修参加の機会を計画的に実施していく。 ・小児の機能訓練を実施できる療法士を増やしていく(募集を継続して行う)

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Seamless Support Labs ライズ・スプレッド(児童発達支援)				公表日	2026 年 2 月 10 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容によって活動場所を変更し、適切な支援ができるよう工夫をしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			摂食・嚥下に対する評価・訓練を実施できる専門職の配置ができていない。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		重症心身障害児が通所することを前提に設計・建設されており、バリアフリー化されている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		食事・医療的ケア用品を洗う清潔水道と手洗い・活動物品等を洗う不潔水道を分けて設置をし、使い分けている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動内容やその日の体調によって個別の部屋や場所を使用できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼・夕礼・支援会議、また普段の会話時より課題・改善点を話し合っている。	会議等に参加できなかった職員への情報共有が十分でない時がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		6ヶ月に1回の面談時に、保護者からの意向を確認するようにしている。	今回が開所して初めての評価アンケートとなるため、意向調査を基に、次年度の行事やプログラムの検討・実施をしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		機会は設けている。	意見等を把握したうえで、十分な業務改善に繋げるまでには至っていない。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	実施なし		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年2回の法人研修と外部研修への参加、事業所内での研修を実施している。	経験年数等に応じた外部研修参加の機会を設定できるようにしていく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		法人のホームページにて公開をしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		本人や保護者のニーズだけに偏ることなく、各専門職とのケース会議を経たうえで作成するようにしている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議には事業所全職員が参加するようにし、共通理解のもと支援を提供できるようにしている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察や法人のアセスメントシートを活用し、利用児の状態把握に努めている。	専門職の雇用を行い、フォーマルなアセスメントツールを使用した評価ができると良い。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月1回の月案会議を実施している。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		継続して取り組む活動と新たに取り組む活動を月案会議にて話し合って決めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の年齢・状態像に合わせて、個別・集団とそれぞれの活動を提供できるように工夫している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の体調は必ず共有を行い、活動プログラムについても柔軟に変更する等の対応をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		特記事項や支援における気付きについては当日の夕礼にて共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日のケース記録を作成している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6ヶ月に1回の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育園との併行利用をしている児童については、原則保護者を通して情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係者会議にて学校担当者へ、また、就学相談員の訪問時に該当児童の情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児発・放デイ連絡会へ参加し、区内事業所の状況把握や意見交換等を実施している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		保育園と園庭を共有しているが、時間を分けて使用しており交流はできていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		年2回程度家族連絡会を開催し、都度勉強会を実施している。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		毎年の契約時に口頭にて説明をしている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		6ヶ月に1回のモニタリング面談時や普段より保護者と話をする機会を設け、意向を確認するようにしている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		現在できていること、できるようになるとより本人にとってプラスになることを丁寧に説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		本人の様子だけでなく、ご家庭の状況も把握できるようにし、支援を提供できるようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年2回程度家族連絡会を開催、建物全体でご家族も参加できるイベントを開催している。	いずれも、ご家族同士が自発的に交流を図ることを前提としており、適切な機会の確保は十分でない。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		申し出があった際は、迅速かつ適切に対応できるようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		日々の連絡帳での情報共有、6ヶ月に1回のモニタリング面談時、イベント時等で情報を共有している。	定期的な通信の発行等で、より安心して通所いただけるようにしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		毎年の契約時に個人情報の取扱いに関する同意書を交わし、同意された範囲内で情報を使用している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもや保護者の状況に配慮しながら、できる限り直接対話を心がけている。必要に応じて、紙面やメールの活用をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民との交流を図るような事業運営の重要性は理解しているが、実施できていない。	どのような交流方法が良いのか検討をしていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			実施日に参加した児童のご家庭への共有となっているため、各ご家庭に周知できるように検討していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に必ず確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者から情報収集している。現在該当児童はいないが、該当児童が居た場合については法人の医療的ケア実施要項に基づき医師の指示書を作成してもらう。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			各ご家庭への周知が不足しているため、漏れなくできるようにしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事例発生後、再発防止策の検討、改善を行い、作成した報告書はいつでも閲覧可能な場所にて保管している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人全体での研修1回、事業所内での研修1回の年2回実施。研修報告書の提出を義務付けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		6か月に1回委員会を開催し、審議記録とやむを得ず身体拘束を行うことについて記載した様式を合わせて法人へ提出して承認を得ている。個別支援計画に記載して面談時に保護者へ説明している。		

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Seamless Support Labs ライズ・スプレッド(児童発達支援)

公表日 2026 年 2 月 10 日

利用児童数 9 名

回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6				・広くきれいに保たれていると思う	今後も清潔な環境を維持していきたいと思えます。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4			2	・現在の人数がわからない	契約時に職員配置数をお伝えさせていただいております。変更になった場合においては、都度お知らせさせていただきます。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6				・とてもよく考えられていると思う	引き続き、安心して過ごせる場所を提供していきます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6				・よく工夫されていると思う	引き続き、安心して過ごせる場所を提供していきます。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5	1			・これから更に専門職の方が増えることを期待している	専門職の採用活動を継続して行い、お子さまそれぞれに合った支援を提供できるようにしていきます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6				・とても細やかに計画され、本人・家族の様子を聞いてもらえていると思う	本人の成長に合わせた計画を作成・実施ができるよう、今後も丁寧に支援をさせていただきます。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5				1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。				4	2	・具体的な活動はこれからのかと思っている ・やってみようと思っていたが、今後も予定はないのか	今年度においては計画・実施ができませんでした。次年度に向けて、どのような取り組みが実施できるか検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6						
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6					・お話を伺える機会も多く、安心して利用させてもらっている	ご家族の方との対話を大切に、安心して通所いただけるようにしていきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6						
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2			1			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5	1			・毎回迅速に対応してもらっている	職員間の報連相をしっかりと行い、ご相談いただいた内容等については適切に対応できるようにしていきます。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。					・毎回丁寧に活動の様子を連絡帳にて伝えてもらっている。 ・定期的に活動写真ももらえる。 ・どこかで確認できるのか。	活動の様子については、送迎時や連絡帳を通してのお伝えとなっており、定期的な通信の発行やSNSでの発信はできておりません。ご家族のご意見も伺いつつ、お子さんの様子等のお伝え方法については検討していきます。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5			1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	1		1			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1		1	・実際の訓練の様子などを見学、または参加してみたい	訓練実施については事前のお知らせが年間予定での提示のみで、不足しております。実施日近くになった際は改めてお伝えすること、実際の様子についてお伝えする方法を検討いたします。あ、見学等についても検討いたします。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4				2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5				1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5				1	・朝も帰りも機嫌がよく、楽しんでいると思う	楽しんで通所いただけるように、引き続き活動を提供していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	5	1			・成長を感じることができ、大変感謝している	今後も充実した活動を提供できるようにしていきます。	